

雨が上がれば

日本は雨が多い国です。季節によっても、雨が降る状況によっても、それぞれ雨に名前が付けられています。ざっと調べただけでも400もあります。中でも6月上旬から7月下旬にかけて降り続くのが、夏の代表的な「梅雨」です。まず“迎え梅雨”。本格的な梅雨の時期に先駆けて2～3日降り続く雨です。この時期に雨が降らなければ“空^{から}梅雨”と言われ名ばかりの梅雨になります。そして“送り梅雨”。これは雷を伴ってひととき強く降る梅雨で、この雨が上がると夏の到来です。聖書には『…あなたがたに天からの雨と実りの季節を与え、食物と喜びであなたがたの心を満たす…』と、神様が私たちに雨による祝福も与えてくださっていることが記されています。

Oh! Happy Day

衣服はすり切れず、足は腫れ^はなかった



井本美佐子

私は大阪教会が中之島中央公会堂で始まった年にクリスチャンとなりました。それまで聞いたことのない福音に触れ、自分が罪人であることを認めました。それから今までの長いクリスチャン生活は決して平坦な道のりではありませんでした。結婚した時、夫は信仰者でしたが、後に信仰を捨てました。しかし夫は私が教会の奉仕や行事で家を空けたりしても、決して妨害したり文句を言うことはありませんでしたし、子供たちの面倒もよくみてくれました。晩年、夫はがんを患い、入退院を繰り返していました。そんなある日、牧師が病院へ訪問してくださり祈ってくださると、その時から夫の表情は全く変わり、とても嬉しそうな表情になり、私は驚きました。

夫の信仰回復は私の日々の祈りでした。神様

は祈りに応えてくださり、夫は神の子となって穏やかな死を迎えました。

私がクリスチャンになってまだ間もない頃に体験させていただいた、ニュージーランドにある母教会での生活も忘れられません。言葉もわからず文化も違う私たちを、母教会の方々は家族のように愛し受け入れてくださいました。そのことにより、イエス・キリストを通した本当の愛を体験しました。その愛によるつながりは半世紀以上経った今も変わっていません。長い信仰生活を振り返る時、私は本当に神に愛されていることを実感しています。

『この四十年の間、あなたの衣服はすり切れず、あなたの足は腫れなかった。』この聖書のことばは事実であり、祈りは必ず応えられます。